

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577700184		
法人名	(有)大昇		
事業所名	グループホームねたろう		
所在地	山口県山陽小野田市大字福田949-1		
自己評価作成日	令和元年11月10日	評価結果市町受理日	令和2年6月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和元年12月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・古民家改修型で季節感を感じられ、利用者さんが馴染みやすい ・三食手作りの食事を提供している ・毎日入浴し、個々に応じた介護をしている ・施設しておらず、自由に外に出たりできる ・定期的に各利用者ご家族宛に、個々の様子や変化を書き添え、ねたろう新聞をお渡ししている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時前に得られた利用者のこれまでの暮らしの情報を大切にされ、入居後は利用者に寄り添い、利用者の声の変化や表情、どんな時に喜んでもらえているかなど、細やかな観察を通して、「自分の家にいる時と同じ生活ができているか」を職員間で話し合い、利用者らしく暮らせるように取り組んでおられます。「お腹が空いた」という利用者には好みのものを提供できるように準備をされたり、息子役や友人役になって利用者が喜ぶ呼称で呼んでおられます。子どもの世話があるので帰りたいと言う利用者の気持ちを察して、「母ちゃん」と呼ぶようになってから表情も優しくなれています。毎月、家族宛に利用者の様子を手紙と写真を添えて送付され、面会時には「家族と職員は共に介護している」ことを話されています。事業所が駅から交通便の悪い場所にあることから面会時には送迎に協力されるなど、家族とのつながりを大切にした支援をしておられます。食事は新鮮な食材を使って事業所で手作りをされ、美味しいものを提供するために前日から仕込みをされたり、自分で食べられるように形態の工夫をして提供しておられます。代表者は自治会長と常に連携をされ、地域防災訓練等への参加や周辺環境整備へ協力されると共に、運営推進会議を通して、害虫駆除や危険動物情報、樹木の伐採や草刈の方法を地域の人から教えてもらったり、協力を得られるなど、利用者が安心して暮らせるように基盤づくりに取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	令和元年職員全員で理念を構築し玄関に掲示、理念を共有し実践に向けて取り組んでいる	職員全員で話し合い「住み慣れた地域で、家族、地域の方々と共に支え合い、その人らしく暮らしていけるように支援します」という地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、基本方針と一緒に事業所内に掲示している。管理者と職員は基本方針である、利用者らしく、ゆっくり、ゆったり、のんびりと過ごしているかを話し合い、その理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域への行事にもお誘い頂いたり、お大師様参りなどをし交流している。	自治会に加入している。代表者は事業所の課題について、常に自治会長に相談し、事業所としても、地域に協力できることはないかと働きかている。これまでに2回、事業所便り(年4回発行予定)を地域に配布して理解が深まるように取り組んでいる。代表者は事業所周辺の草刈を行い、地域で実施しているj防災訓練に利用者や職員と一緒に出かけている。地域の人から、草刈の方法を教えてもらったり、樹木の伐採に来てもらったり、害虫駆除(マムシ、ムカデ)や危険動物(熊、鹿、猪)対策について教えてもらっているなど、事業所では地域で利用者が安心して暮らせるように基盤づくりに取り組んでいる。利用者は、2カ月毎に来訪しているボランティア(歌、手遊び、なぞなぞ、線つなぎ、計算等)と交流している他、散歩時や買物時に会う近所の人と立ち話をし、回覧板を持参する子どもと受け取りに出て話をしているなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症に関するテーマを取り上げ、話し合いや相談等受けている。またねたろう新聞を定期的に作成・配布している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は全員で行い、外部評価で指摘された項目などスタッフに伝え、それを改善するよう取り組んでいる	管理者は職員に評価の意義を説明し、自己評価のための書類を全員に配布して記入してもらい、まとめている。職員は自己評価を日々のケアの振り返りと捉えている。評価項目の理解が不十分な新人職員については、内部研修や日々の業務を実践する中で理解が深まるように、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度行い、現状報告や活動報告をし意見交換を行っている	会議は2カ月に1回、本人、家族、自治会長、民生委員、市関係者、地域包括支援センター職員、学識経験者の参加を得て、テーマを決めて開催している。利用者の状況やサービスの状況、行事予定、勉強会を実施した後、話し合いをしている。勉強会はテーマに添った内容(顔合わせ、施設の紹介、認知症について、災害対策等)で実施している。参加者からは地域行事の紹介や害虫駆除(マムシ、ムカデ等)、危険動物出没情報(熊、猪、鹿等)、事業所周辺の樹木の伐採や草刈等、環境整備の必要性についての意見があり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空きがでた時や、わからない事があった時は連絡を取り指導を仰ぎ、運営推進会議においては現状や活動報告を伝え関係は築いている	市担当者とは運営推進会議時の他、電話や直接出かけて情報交換をしたり、申請内容や手続き、運営上の疑義、困難事例等について相談をし、助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換を行い、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を玄関に掲げ、日中は出入り可能にし、また施設内研修を行い身体拘束しないケアに取り組んでいる。ただし生命の危険があると思われる場合は、ご家族に説明し理解して頂いている	代表者は「身体拘束ゼロ宣言」を玄関に掲示して職員に喚起している。職員は「身体拘束排除に係る指針」や身体拘束排除マニュアルをもとに内部研修で学び、身体拘束の内容や弊害、虐待について正しく理解している。職員による「身体拘束排除委員会」を毎月開催し、多動と身体拘束について話し合いをしている。玄関には施錠はしていない。外出したい利用者があれば、職員と一緒に出かけるなどして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて気になる時には管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員に虐待防止マニュアルを渡し、年一度施設内研修を行い注意を払い、気になる言動があれば個々で注意をしている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行っており、必要と思われた時は関係機関と協力している		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学と事前説明を行い、契約には十分な時間を取り理解・納得を頂き契約している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受け付けた時の処理手続きの手順は定めており全員が周知し反映している	相談や苦情の受付体制、外部相談機関を重要事項説明書に明示し、処理手続きを定めて契約時に家族に説明をしている。家族からは面会時や運営推進会議参加時に意見や要望を聞いている。意見箱を設置している。毎月、利用者の暮らしの様子を手紙で知らせたり、写真入りの事業所便りを送付している。面会時には代表者の方から利用者の日常の様子を話し、家族と共に介護していることを伝えて、意見や気づきが言いやすいように取り組んでいる。意見や要望は連絡ノートに記録して、職員間で共有している。家族からは面会したいが車の運転ができず、公共交通機関もなく残念であるとの意見があり、利用者に会いたい家族の希望を汲み取り、JRの駅まで送迎をしているなど、家族とのつながりを大切にし、運営に反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のミーティングや申し送り時に要望を聞き、また連絡ノートを利用し伝えている。	代表者や管理者は申し送り時や月1回のミーティング時に職員の意見や提案を聞いている他、「連絡ノート」を利用して聞いている。代表者は「何か困ったことはないか」と常に職員に話しかけて、意見が言いやすいように取り組んでいる。職員からの居室や施設内の安全な環境(害虫駆除)や備品(乾燥機)の購入、勤務変更等の意見や要望を反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況をきちんと把握しており、それぞれに応じた条件を提示している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は職員が交代でリーダーとなり研修を行っている。また外部の研修案内があれば参加できるようにし出勤とみなしている	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は内部研修で伝達し、資料はいつでも閲覧できるようにして全員が共有している。在宅医療や介護及び啓発講演会を受講している。内部研修は毎月1回、外部講師や代表者を講師に、理念についてや災害時の自助、共助について、危機管理、119番通報マニュアル、学びの感覚、高齢者のための口腔ケア、身体拘束・抑制等を実施している他、時宜を得たテーマや外部研修の伝達等を実施している。新人研修は日々の業務の中で、代表者や管理者、先輩職員が指導者となって、介護の知識や技術を働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、研修や交流会がある時には参加し、情報を得てサービスの向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されて間もない時は、お互いの理解を深める為に関わる時間を多く持ち、その中でいろいろな思いに耳を傾け安心して過ごして頂けるよう努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面会時にお話しする時間を取り、不安や要望など話しやすい関係に努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設で他の介護保険は使用できないが、医療で支援できる事は主治医に相談し取り入れていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる力を見極め協力して頂いたり、人生の先輩として教えて頂いている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の気持ちと家族の気持ちを汲み取り、時には代弁者となり、相互が良好な関係を築けるよう努めている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限は行わず、電話などを利用し関係が途切れないように努めている	家族の面会や親戚の人、友人、近所の人 の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。事業所から馴染みの商店での買物やドライブで日頃から出かけていた観光地（東行庵、花の海、石山公園、焼野海岸）に出かけている。家族の協力を得て墓参や外食、外泊等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、通院やテーブル席、車内での座席位置に配慮し孤立しないようにしている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中のお見舞い、手紙の継続、訃報時の対応、お会いした時は挨拶しお話をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で希望を聞いたり、表情や声など普段と様子が違う時など気をつけ、どのように生活していく事が一番幸せかを基本として考えている	入居時には自宅や前施設を訪問して、これまでの生活歴(1日の過ごし方、趣味、楽しみ、得意なことなど)を基本情報に記録して思いの把握に努めている。入居後は日々の関わりの中で利用者に寄り添い、発した言葉や声の変化、表情、どんな時に喜んでいるかなどを、介護日誌に記録して思いの把握に努めている。「帰る」と不穏な状況が続いている利用者に、子供の世話をするために帰りたいのだという気持ちを察して、呼称を「母ちゃん」と呼ぶようになってからは表情も優しくなり、落ち着かれている。職員は利用者の関するこれまでの情報や日々の言動等、細やかな観察を通して思いや意向の把握に努めている。職員からの言葉かけに個々の利用者から「有難うございます」の言葉が多く聞こえる。困難な場合は家族からの情報を得て「これまでの暮らしができていないか」を職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメントを取り本人やご家族から情報を集めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりできる力、心身状態を把握し、それぞれ適した過ごし方ができるよう支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングに話し合い、ご家族やご本人より希望を聞き現状に添った介護計画を作成している	計画作成担当者が中心になって毎月カンファレンスを開催し、本人、家族の思いや意向、主治医、訪問看護師、薬剤師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを実施して介護計画の見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	短期目標を日誌に記入してあり目標に添った記録をし、ミーティングなどで話し合いをし介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の健康状態によって、ご家族の了解のもと訪問診療や訪問歯科のサービスを取り入れている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防・警察・地域住民との交流の中で安全に暮らしていける支援をしている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症の方の話をよく聞いて下さる優しいかかりつけ医で、月一度定期受診し往診にも入って頂ける	本人、家族の納得を得て、全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診と月1回の定期受診を支援している。他科受診は家族の協力を得ているが、都合がつかない場合は事業所が支援している。専門医への受診は事業所が支援している。訪問看護師が点滴注射のため、毎日来訪している。歯科は月に1回、往診がある。薬剤師が薬を分包して来訪し、服薬指導を受けている。結果は連絡ノートに記録して職員間で共有し、家族には電話や面会時に報告している。緊急時には協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内で情報を共有し、誰でもかかりつけ医や訪看に利用者様の健康に対して相談できるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフが付き添い情報提供をしている。入院中はこまめに見舞いに行き、ご家族とも密に連絡を取り、必要に応じて医師からの説明もご家族とともに聞き早期退院できるよう努めるようにする		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後起こりうるであろう状況を早めに見極め家族に説明し、医師と家族とともに今後の方針を決定している	重度化や終末期に事業所で出来る対応について、契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合は、早い段階から主治医から病状の説明をしてもらい、本人や家族の意向をふまえ、医師や訪問看護師等関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故報告がある時はミーティング時に話し合い事故防止に取り組み、また年一度救急救命講習や研修を行う予定	事例が生じた場合はヒヤリハットや事故報告書に原因や対応、予防策を記録して回覧し、月1回のミーティング時に再度話し合い、利用者一人ひとりの事故防止に努めている。事故防止マニュアルを作成している。内部研修で危機管理や害虫駆除等について学んでいるが、通常起こる事故防止のための方法の習得が必要である。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回昼夜を想定した避難訓練を行い、マニュアルもありミーティング時にも勉強会を行い、また防災システムを設置しており自治会への協力をお願いをしている	年1回、昼間の火災を想定した避難訓練と避難経路の確認、防災機器の使い方について利用者也参加して実施している。代表者は地区防災訓練に参加し、市の出前講座「防災対策について」には利用者と一緒に受講している。防災システムが完備しており、災害時には地域との連絡網ができています。運営推進会議で避難訓練への参加を呼びかけているが参加が無く、地域との協力体制が十分とは言えない。非常用食品(水、乾パン)は備蓄している。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修でプライバシー保護研修を行い、他者の言葉がけにも注意している	職員は内部研修(接遇やプライバシー、個人情報保護)で学ぶと共に、「自分の親であったら、このような介護を受けたいか」「どんな呼称に喜んでいるかを考えて」との管理者の日頃の指導を通して、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報は適切に管理し、守秘義務は徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフと利用者という関係でなく人として接し、本人が希望や思いを伝えやすい関係づくりに注意し、自己決定の機会を多く持てるようにしている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	離床から就寝までその日の体調をみながら、一人ひとりのペースに合わせて支援し過ごして頂いている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容理容は希望あれば支援し、これまで通りの本人のおしゃれが出来るよう支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・台拭きなどできる事は手伝って頂き、食べたい物のリクエストあった時そのメニューを提供し、味付けはご自分で決定できるようにしている。そして職員も同じテーブルに着き食事している	食事は利用者の好みを聞いて献立を立て、季節の新鮮な食材を使って三食とも事業所で食事づくりをしている。ケーキ作りや煮しめなど、前日から仕込み、「美味しいもの」を利用者に提供するための努力をしている。食欲を高めるように季節感を大切に、一人で食べることができるように、形態(刻み、とろみ、小むすび、粥等)の工夫や食品交換、食器の工夫をして提供している。利用者はゆで卵の皮むきや野菜の下ごしらえ(芋の皮むき)、野菜を切る、柿の皮むき、お茶の袋詰め、テーブル拭きの他、おやつ作りではケーキを切ったり、盛り付けるなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルで、食材の話をしながらいっしょに食事を摂っている。おやつ作り(ケーキ、ぜんざい、おはぎなど)やテラスで喫茶をする戸外食、好きな献立となる誕生日食、家族の協力を得て外食など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量は記録し、刻み食・マッシュ食・とろみ・小むすび・粥など、一人ひとりの状態に応じた調理法で提供している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じた口腔ケアを行い、夜間に義歯洗浄を行っている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用はなるべく避け、各自に合わせ綿パンツ・紙パンツを使用し、一人ひとりの排泄パターンを知りトイレの声かけし自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、習慣を活かして、羞恥心や不安に配慮し、一人ひとりに合った言葉かけや対応をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。オムツやパットを利用する際にはその根拠をはっきりさせて家族にも説明している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて個々の排泄状況を把握し、水分補給や調理を工夫したり、また歩行や体操を行ったり運動している		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの体調を確認し毎日入浴して頂いている。夜間は夜勤者一人なので入浴は行っていない	入浴は毎日、8時から11時30分まで入浴できる。順番や湯加減、好みの石鹸、入浴剤の利用、季節の柚子湯など、利用者の希望に添って、ゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴は1対1であり、利用者の思いを知る良い機会となっている。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、介助者の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、手浴、シャワー浴、部分浴、シャワーチェアの活用等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自個室の為、休みたい時休めるようになり、エアコン・扇風機・電気アンカを使用し安眠できるよう支援している		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に際しては個々に応じて口の中に入れて見守りしている。症状に応じて減数」等も主治医に相談し指示を仰いでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張りが持てるよう場面を作り、洗濯たたみ・テーブル拭き・お盆拭き・新聞分け・カラオケ・CD鑑賞・ゲーム・ボール投げ・散歩・外気浴など気分転換の支援している	掃除(掃く、拭く、玄関の掃除、庭を掃く)、ゴミを捨てる、リネン交換、布団を干す、カーテンの開閉、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、生花を生ける、花瓶の水を換える、食事の号令をかける、プランターの水やり、苗植え、草取り、庭の草取り、雑巾を縫う、繕いものをする、テレビ視聴、新聞、雑誌、本を読む、ぬり絵、折り紙、切り絵、貼り絵、オルガンを弾く、歌を歌う、カラオケ、干支の壁画作り、さげもん、かるた、トランプ、ふーせんバレー、ボール遊び、ボーリング、黒髭ゲーム、なぞなぞ、しりとり、パズル、ラジオ体操、リハビリ体操、テレビ体操、口腔体操、脳トレ(計算ドリル、漢字ドリル、4字熟語、間違い探し、線つなぎ)、ボランティアの来訪、買物、外出など、楽しみ事や活躍できる場面を多くつくり、利用者が気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩や外気浴や美容院などの支援を行い、お雛さま巡りや花見や行楽など事前に計画を立てて行っており、ご本人の希望あればご家族に伝え協力頂いている。	周辺の散歩やテラスでの外気浴、日光浴、季節の花見(コスモス、紅葉)、ドライブ(スーパーマーケット、花の海、東行庵、焼野海岸、秋吉台)、食材の買物に出かける他、家族の協力を得て外出や買物、墓参等、本人の希望に添って戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了解のもと個人的にお金を持っている方もいるが、ほとんど方は金庫に保管し必要に応じて使用できるようしている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった時など電話できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや出窓や廊下より外が眺められるようになっており、室温は利用者様の体感に合わせ調節し快適に過ごして頂けるよう支援している	古民家を改造した建物で、山里の風景に溶け込み、四季を肌で感じる毎日を過ごしている。広々とした外庭にはプランターに季節の花を植え、テーブルや椅子を置き、天気の良い日には外気浴や日光浴、戸外食(喫茶や食事)をしている。家庭の雰囲気を残す室内には机や椅子、ソファ、テレビが置かれ、利用者は思い思いの場所でくつろげるようになっている。リビングの中央に在るキッチンからは調理の様子や音、匂いがして生活感を感じることができる。温度、湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ二台置き、出窓でも寛げるよう椅子を置き、軒下で外気浴できるようにベンチやテーブルを置き思い思いに過ごして頂いている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべくご自分が使用していた物を持ってきて頂いており、ベッドの向きもこれまでの事を聞き居心地良く過ごせるようにしている	整理ダンスや寝具、衣装ケース、テレビ、椅子、ソファ、テレビ、時計等、使い慣れた物やこのみのものを持ち込み、カレンダーや自作のぬり絵作品、自分の写真等を飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせた部屋の配置で、廊下やトイレや玄関や浴室に手すりを設置し、スロープには滑り止めをしており、つまづきやすい段差には色テープを使用している		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームねたろう

作成日： 令和 元 年 11 月 10 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14	指示された業務だけではなく自発的な行動や自分の意見が少ない。	各職員が業務に関しての自分なりの理念を持ち知識や介護力を向上させ、自分自身で考えて業務遂行できるようになる。	外部研修への参加や内部研修・ミーティングで各自の意見や質疑応答で発言機会を設け問題を提起し解決策を考えていく機会を持つようにしていく。	通年
2	15	職員間でトラブル発生時に個人の力量に差がある。利用者だけでなく職員も守るために実践力を身に付けたい。	すべての職員がトラブル発生時に備えて実践力を身に付けることができる。	救急講習や外部研修でアウトプットしたものを内部研修などを行い、実践力を身につける。	通年
3	16	地域の防災計画、施設としての防災の対策などを地域の中で協力体制を築きたい。	福田区自治会の防災システムを把握し、自治会との協力体制を構築する。	自治会での防災システム協力体制を構築し、火災や土砂災害、水害発生時の時など近所の方が避難の手伝いをしてくださるような関係を築く。また災害発生時に当施設を避難場所として提供する。	通年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。